

新型コロナウイルスによる学校・教育現場への影響とは？

新潟県吉田特別支援学校 教頭 片桐 隆

1 学校は何を失ったのか

- ① 日常の授業（学習保証、対面授業、黙食給食）
- ② 通常実施していた学校行事（体育祭、文化祭、合唱コンクール、修学旅行など）
- ③ 児童生徒の健康問題
（巣ごもり、体力低下、視力低下、睡眠、肥満、ゲーム依存、脳への影響、コミュニケーション能力の低下）
- ④ 保護者の収入減による教育活動等への影響で配慮（修学旅行、教材等）
- ⑤ 対外運動競技等の不参加 など

2 学校は何をやるべきか

- 新型コロナウイルス感染拡大予防教育など
- ① 新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアルの作成と対策
- ② 新型コロナウイルスワクチン接種できるよう関係機関との連携
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止研修

- ICTを活用した先進的な取り組み
- ① メディア依存症予防等の学習指導
- ② 従来の延長ではなく、新しい教育を模索していくことが必要
- ③ できることから始める、オンライン教育。実施すれば、問題・課題が出てくる。そのことを前提に、オンライン教育を推進していくことを目指して、できることから始め、問題等を解決しながら、推進していく。
- ④ 複数のアプリとの組み合わせ、双方向や反転授業（アクティブラーニング）や児童生徒が教えることで学習（リバースマスターや相互学習）
- ⑤ 家庭と協力し、スクリーン（電子機器等）から離れる時間や身体を動かす時間をつくるなど、心身の健康にも配慮することも必須である。
- ⑥ 不適切画像流入などの情報セキュリティの強化が必要。
- ⑦ 家庭の環境（機器整備などを含む）への配慮や働き方改革と適切に組み合わせ、親もより関わられるようにすることを目指す。
- ⑧ 学校・教員および家庭への技術的サポート体制の整備
（現在、新潟大学山口さんから月1回来校いただいている。また、ICT支援員配置済み、週1回12月末まで、22回来校予定）

- 将来に向けて
- ① オンラインと対面教育をうまく組み合わせ、どう推進していくか。
- ② いつでも、どこでも、だれでもが学んだり、教えたりできるように、オンライン教育を活用できるシステムにしていく。
- ③ オンライン教育の定着のため、オンライン授業日の設置もありと考える。
- ④ オンライン化推進での問題発見で新サービス、製品等をつくり、新潟発や日本発の新教育システムを創出する。